



執着心と柔らかさ

秋を飛び越えて急に冬になったような寒さになりました。体調管理に気をつけて過ごしましょう。そんな師走にスウェーデンで寒さを吹き飛ばす受賞スピーチをする予定なのが、リチウムイオン電池の開発による功績でノーベル化学賞を受賞した吉野彰さんです。そして日本でのインタビューでは、研究者には2つの側面が必要と語っていました。1つは執着心で、壁にぶつかってもすぐにあきらめないこと。2つめは逆に柔らかい能天気な面も必要で、そのバランスを取りながら研究は進むのだと。社会に出てからは、計画通りにものごとを進め納期に間に合わせる、売り上げ目標や予算を達成するなど様々なことに対する執着心が求められます。しかし途中で問題が起きた時などに柔軟に対応する力も必要です。吉野さんが強調していたのもそういうことでしょう。

さて、やっと中学の中間テストがすべて終わったところですが、各中学では定期テスト前に学校のワークの指定されたページを解いて提出しなければなりません。ところがワークに載っている問題には基礎的なものから応用まで難易度に差があり、それぞれにA～Cなどの分類マークがついています。そのとき学校からの指示をやり遂げようという執着心を持ちすぎている人を見かけることがあります。もちろん基礎のA問題は繰り返し解いて完璧にしておき、テストで絶対に間違えないようにしなければなりません。B問題はできる人とできない人との差がつく問題なので、納得するまで解き方を理解しましょう。途中で投げ出さない執着心も必要です。そしてC問題ですが、ここで柔らかい対応もありです。過去の入試問題も含まれていたりするので、テスト直前の限られた時間の中でどこまでやっておくべきかを一度冷静に考えてみましょう。満点をめざしたいというのであれば、答えを写して「ああなるほど、そう解くのか」で済ませていい問題もあるはずです。メリハリや優先順位のつけ方を考えるのもテスト勉強のうち。ただし、執着心ゼロで初めからあきらめたりなんかはしないこと！